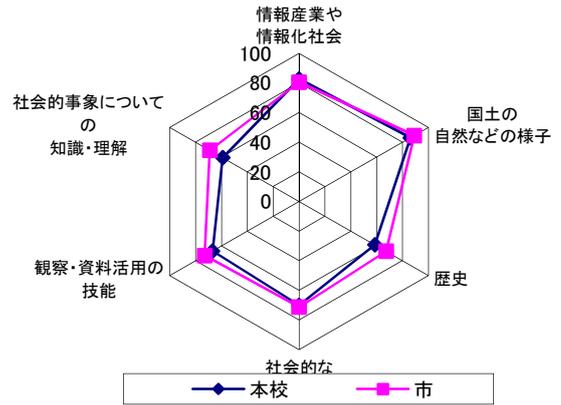


宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	82.7	80.5
	国土の自然などの様子	86.0	89.0
	歴史	58.5	67.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.1	71.3
	観察・資料活用 of 技能	67.0	73.1
	社会的な事象についての知識・理解	59.1	69.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均に比べやや高い傾向にある。特に、「情報を利用するときに注意すること」を聞かれた設問の正答率は96%で、学習したことへの定着はもちろんだが、情報モラルの指導が徹底していることのものである。	社会での学習以外の教科でも情報を扱うことは多い。情報を効果的に活用することの大切さを、多様な場面で指導するとともに、モラルの点でも徹底していくことで、情報を正しく有効に利用できるようにしていくことで、情報産業や情報社会について、体験的に学習していく。
国土の自然などの様子	平均正答率は、市の平均に比べやや低くなっているが、85%を超えており、定着はみられる。グラフの読み取りは全員が正答しているが、資料から解決するための対策を考える設問の誤答が多かった。	資料をただ読み取るのではなく、グラフの変化した点で何が合ったのかを考えたり、自分たちが立てた仮説を立証する際に資料を使ったりすることで、資料を活用することで身につく思考力を育てていく。
歴史	平均正答率が58.5%で、市の平均を下回っている。縄文・弥生時代、長篠の合戦など知の平均を上回っているところもあるが、下回っている設問が多い。特に室町時代の問題に関しては、正答率が低くなっている。思考・判断・表現の問題は市の平均とほとんど変わらないが、知識・理解の問題で市の平均と差が出ている。	思考や資料の問題に大きな差はないが、知識・理解の問題で差が大きいので、授業の中で知識の習得を徹底すること、習得した知識を忘れないために、プリントや小テストで繰り返し学習すること、歴史や歴史上の人物に関する書物を教室に置き、時間があるときに読ませることなどで、学習した知識の定着を図っていくようにする。